

邸園の概要

※特別なイベント以外は非公開です。

所在地 鎌倉市長谷 3 丁目 598

建設年 大正 7 年 (1918)

構造 木造/平屋建/棧瓦葺

設計 笛吹嘉三郎

その他 国登録有形文化財 (平成 28 年 11 月 29 日)



明治ゆかりの邸園

旧山本条太郎別荘は、明治～大正期に実業家として活躍した山本条太郎によって建設された建物です。

邸園の概略

旧山本条太郎別荘は、長谷桑ヶ谷（鎌倉能舞台のある谷戸）の海拔 40 メートルの崖上に位置し、大正 7 年 (1918) に山本条太郎が別荘として建設した近代の数寄屋建築です。

当初の敷地は一万坪を超え、現在でも約五千坪の敷地が残されています。

建物は、複数の棟から構成され、崖線に沿って雁行型に並びます。表玄関を崖下に配し、居間は懸造風に張り出すなど、敷地の高低差を巧みに活かした配置を採ります。

昭和 31 年 (1956) に土地の一部を残し、土地・建物は九鬼悠巖氏に譲渡され、その頃に北東端の茶室・寄付は増築されました。昭和 57 年 (1982) には、現在の所有者である宗教法人神霊教の鎌倉錬成場「霊源閣」として使用されています。

山本条太郎は、明治 14 年 (1881) より三井物産に勤務、明治 22 年 (1889) には上海支店に赴任し、明治 41 年 (1908) に東京本社理事になるまで上海で勤務したことから、三井物産きっての中国通として知られた人物です。

大正時代には、実業家に転身し、鉱山・電力・繊維事業等に関わる一方、政治家となり、後には南満洲鉄道株式会社総裁を務めました。

山本条太郎の鎌倉別荘の敷地は、当初原亮三郎氏が所有していた土地で、原は山本条太郎の妻・操の実父であり、明治 38 年 (1905) に娘の操に譲渡され、大正 7 年 (1918) に別荘を構えました。

設計者は棟札より、笛吹嘉三郎とされ、表千家残月亭を意識した意匠を見せるなど、上質な近代数寄屋建築です。